国土交通省
道企第315号
19.5.31

土　　第 34 号
平成19年 5月 8日

国土交通省道路局長殿

塩竈市長　佐　藤　　昭

中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のあった標記については、別添のとおり提出しますので、よろしくお願いいたします。

担当　建設部土木課長　千葉
TEL　022(364)1111 内線 342
FAX　022(362)7249

道路整備の中期的計画の作成についての意見

塩竈市では、「日本一住みたいまち　塩竈」の実現に向け、「元気です塩竈」「安心です塩竈」「大好きです塩竈」を市政運営の基本的な考え方として、塩竈の活力の再生、市民の安全・安心の確保、市民が誇りと愛情を持ちつづけられるまちづくりを進めております。

本市の行政面積は17.85K㎡（離島を除くと約16K㎡）と非常にコンパクトなまちであり、さらに人口密度は東北一の3.3千人／K㎡（人口が約6万人）と高いため、快適な居住空間の創出のみならず、効率的な都市機能を発揮するためには、更なる社会基盤の整備が強く求められております。

また、本市は海上交通の拠点としての特定第三種　塩竈漁港、特定重要港湾　仙台塩竈港（塩竈港区）を有しており、近隣市町のみならず県内・県外への貨物等を搬送するための交通インフラの更なる整備が求められており、このインフラ整備は、他地域との交流や連携を深めるためにも極めて重要と考えております。

○ 広域道路ネットワークの推進について

地方分権を推進するためには、地域経済の再生が最も重要な課題となっており、このためには産業競争力の強化に向けた物流基盤の整備が求められております。

本市は、特定第三種　塩竈漁港、特定重要港湾　仙台塩竈港（塩竈港区）を有しておりますが、基幹産業である水産加工業の低迷や人口の減少等、まち全体の活力の低下が著しいなか、特に、基幹産業である水産加工業の活性化が大きく地域経済を支えるものと確信しております。

塩竈港に水揚げされる生鮮本マグロ（約2,400トン／年）、生鮮めばちマグロ（約2,200トン／年）は、水揚げ量日本一を誇っており、日本の台所である築地市場へも出荷しており、特に、めばちマグロについては、昨年ブランド品として「三陸塩竈ひがしもの」の商標登録を行ない、消費の拡大を図っております。また、水産練り製品の生産も約46,000トン／年と、これも日本一の生産量を誇っております。

これら水産加工業の更なる活性化を図るため、漁港背後地を活用した国際的な水産物流基地構想も具体化していく必要性を強く感じております。

水産加工品をいち早く搬送するとともに、産業基盤を強化する基地構想の具現化のためには、三陸縦貫自動車道へのアクセス路線となる幹線道路の早期整備が近々の政策課題となっております。

自動車道へのアクセス道路の整備は、水産加工業の発展のみならず、日本三景松島の遊覧船発着基地を抱える塩竈の観光政策にも大きく貢献することは必然的であり、また、生活圏を共有している二市三町（塩竈市・多賀城市・利府町・七ヶ浜町・松島町）の広域連携の更なる促進、災害発生時の緊急輸送路等としての機能や高次医療施設へのアクセス性の強化の面からも、重要な政策と考えております。

○ 宮城県沖地震に備えた安心・安全な道路づくりについて

国の地震調査委員会の発表によると、宮城県沖地震は今後３０年以内に９９％の確立で発生が予測されており、本県が発表した被害予測によると、本市では建物等の被害に加え津波の来襲により 1.1K ㎡の区域が浸水することとなり、この地震による被害は甚大なものと想定されております。地震災害の被害の最小化に向けた対策や、災害発生後の緊急輸送道路・橋梁などの道路施設への耐震補強等対策を推進することが重要と考えております。

また、市内を通過する広域幹線道路は国道４５号のみであり、災害時に陸路が確保されない場合、海上交通の拠点となる塩竈港を活用した緊急物資の輸送が、近隣市町も含め重要となるため、塩竈港から市内・他地域への代替機能を確保した路線（例えば、県道利府中インター線）の構築が重要と考えております。（代替路線は、他地域との交流性を確保する上でも重要となります。）

○ 快適な生活環境の創造について

広域幹線道路として国道４５号が市内を縦断しておりますが、１２時間交通量が約１７千台、大型車混入率が約２３％となっており、交通量は一般国道の都市部の全国平均値より下回るものの大型混入率が高く、走行速度も２０Km/h 程度と低いため、ＣＯ2 排出量が増大していることは明らかであり、地球温暖化対策上も三陸縦貫自動車道とを結ぶラダーとなる道路整備が求められております。

歩行空間のバリアフリーの更なる促進も大きな課題となっております。現在、ＪＲ本塩釜駅周辺のバリアフリー化率は約５８％でありますが、今後、更なる対応が必要と考えております。また、現在国で検討されております全ての鉄道駅等周辺のバリアフリー化は社会情勢を的確に捉えたものであり、交通事故対策上も有意義なものと考えております。

また、市内における幹線道路であります国道・県道の改良率１００％となっておりますが、市道認定路線約 160 ㎞の改良率は約９割でありますが、生活道路も含めるとまだまだ狭隘道路が数多く存在し、いざ災害が発生した場合は被害を拡大する危険性が非常に高く、地震対策上もこれら狭隘道路の解消が重要な課題となっております。

○歴史と文化の香るまちづくり

本市は、古代には国府多賀城の津（港）として、近世には陸奥国一之宮鹽竈神社の門前町として栄え現在に至っておりますが、既成市街地の空洞化が著しいため、平成１１年３月に策定した中心市街地活性化基本計画により各種事業を進めているところであります。この事業の一つとして、現在県で施行している鹽竈神社参道の都市計画道路整備に併せ、門前町として発展してきた本市の歴史や文化を地域住民や観光客の方々にも実感していただけるよう「歴史と文化を生かしたみちづくり」を進めており、歌枕の地として都人の憧れであったことを知っていただくため

の「古歌板」を設置するなど、文化と景観に配慮した整備を進めております。平成１７年には、まちづくりに関心のある近隣住民・町内会により組織された「鹽竈海道まちづくり研究会」が発足し、沿線の景観のあり方や、まちを活性化するために何が出来るのかなどを検討し、実現できるものから実践して頂いており、昨年度、「日本風景街道」へ応募したところ、国の支援を頂くことができ、さらに活動を強化しようとしておりす。

また、平成１８年には、ＮＰＯみなとしおがまが、市内要所（４箇所）に歴史観光サインを設置し、さらに、町歩きボランティアガイド３６名を養成するなど、市民との協働による塩竈らしいまちづくり活動が活発化しており、今後さらに拡大するものと確信しております。

○塩竈市の今後のあるべきみちづくりについて

安心・安全で快適な生活環境の向上等を確保するためには、今後とも都市基盤としての道路整備が重要となっております。

また、地域力を高めるためは、イベント空間・祭りの空間等としての道の活用を推進することが必要であり、これにより「日本一住みたいまち　塩竈」の実現が図れるものと考えております。

このような道の活用は、多様な連携・協働を育み、ひいては広域行政（医療・学校・福祉・環境等）をさらに推進させるものと確信しております。